

平成22年度 「有明海再生に関する研究等助成」 実施概要

(調査・試験・研究の実施内容)

(実施者名)
国際技術コンサルタント株式会社

(研究課題名)
カキ礁の復活の干潟道

(内容：実績)
測量業務
4級基準点測量・・・測量作業の基準となる点の設置。(GPSにより設置)
※堤防に2点設置、カキ礁に1点設置。

平面測量・・・・・・・・・・調査対象となるカキ礁の範囲の確定。
※現地実測により10,720 m²を確認。

横断測量・・・・・・・・・・標準断面を実測し、断面により形状の把握。

設計計画(予備)
干潟道・・・・・・・・・・構造(タイプ)検討
※観察路の構造検討

(実施による効果評価)
かつて、有明海には300haのカキ礁がありました。しかし、現在はほとんど壊滅したと言っても過言ではありません。カキ、それ自身が水質の浄化をしますが、カキ礁には、数多くの微生物や小さな魚介類が生息し、それらを捕食する大型の魚類が集まってきました。カキ礁の再生は、有明海の”生物多様性の回復”に貢献する一つだと確信します。
有明海再生機構は、一昨年、昨年と筑後川の河口付近に試験的にカキひびを立てました。
今では、カキひび周辺にカキの稚貝が成長してカキ礁が広がりつつあります。そして、その付近には多くの魚介類が集まっているようです。
この成果を契機に、かつて約300haあったカキ礁の再生に取り組みます。幸い、有明海で生計を立てている佐賀県有明海漁業協同組合の方々も、そのことに大きな期待を持っています。
有明海の再生のカキ礁づくりには、世論を動かすことが何よりも大切だと思います。

今回の事業では、予備調査・測量を実施し、将来のカキ礁復活の全体構想の図面づくりを目的としました。その第一歩として六角川河口に存在するカキ礁を調査区域とし、位置の確定、面積測定、横断測量を実施しました。対象区域は以前、カキが生息していた一帯でしたが、現在はごくわずかに生息するのみです。
竹を使用したカキ礁づくりを実施し、以前のような状況へ復活できるか検証が必要です。その観察を常時行うために、干潟道が必要不可欠です。その干潟道は、堤防から100m程度を計画することによりカキ礁へアプローチできます。だれでもカキ礁及び干潟の観察ができるように、学習の場となる施設となります。
干潟上に計画する道は、沈下対策として路床に粗朶束を敷きつめ碎石とカキ殻による構造とします。
今回は予備調査段階であり、構想の段階ではありますが、実施できれば有明海再生の一つとして、大きな効果が期待できます。それは一人でも多くの方々に有明海を知ってもらおう事が大切であり、世論の喚起の一つになるからです。
来年度は実施設計をすべきだと思います。実施設計に必要な費用としては、250万円程度だと考えます。

